

女子服装の改良に付て

大阪 長谷爲五郎

女子服装の改良は目下の急務なるや言を俟ず然して先輩諸君の考案なるものを見るに意匠の少しく急激に過ぎ我國固有の美を失ふ感なき不能數百年來因習の久しき男子すら窄袖に改良する能はざる今日到底女子に望むべからざるや必せり此に於て余の考案する所を公にして世の服装改良論者の參考に資せんとす

一從來の日本服仕立にして衿を除き四巾を巾の儘に用ゆる事

普通木綿巾に付ての畧圖

從來携帶品を帶に挿み、たもとに入る、弊を除かんが爲め袴又は衣類の裏等にポケットを付ること

一カラダを除き男子の如く對丈にする事

一袖丈を壹尺貳寸迄に止め應永又は元祿様の大丸形にする事

する事

一人形は男子の如く縫人形にする事

一細帯に着袴する事

右の如くすれば從來の女丸帯一本にて優に裁ち得べく

而して容易に行ひ安く固有の美も失はず無論下着を飾

るに餘地なければ從て經濟上作業上に至益至使なら

ん予の如き業に洋服裁縫に従事するものは寧ろ窄袖着

袴を喜ぶものなれども今は未だ其時にあらざるを信

ず。

